

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (2 — 202)

団体名	(特非) 洲本域学連携研究所	代表者名	(職名) (氏名) 代表理事 鈴木 伸
事業名	学生と地域住民の交流による「学び合い」社会教育モデルの実践		

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」 「毎○曜日」等で 記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
1月25日	洲本市本町7丁目 旧タケダ玩具店	15 (13)	旧タケダ玩具店で京都大学経済学研究科の吉田匠氏、工藤大樹氏、鈴木伸により講演と洲本市より高橋壱氏、辻淳三氏、坂本昌文氏よりエクスカーション型の地域視察を実施
1月26日	洲本市本町7丁目 旧タケダ玩具店	15 (13)	2チームに分かれて「脱炭素を軸としたまちづくり事業」をテーマに事業費40～200万円程度で実現性がある事業について考えるワークショップを実施した。

< 効果と成果 >

本事業申請時は採択意見での指摘を受け、地域の幅広い活動家と関わりを持つため、洲本市役所企画課と密接な連携を取り、事業に臨んだ。

また学生がどのように地域に還元できるのか、ということ問い直し、学生を専門性の高い博士後期課程の大学院生を講師役とした。また交流を深める観点に加え、継続的な取り組みに昇華させる観点から、参加者も大規模に募集するものではなく、少人数で事業構築という具体的な目標を設定したワークショッププログラムにした。

以上を踏まえ、当日は環境分野を専門とする大学院生3名と洲本市の地域からは市街地の活性化に取り組む団体の事務局長、再生可能エネルギー担当の市役所職員、里山保全活動を行う団体の代表の3名の相互学習と協働のきっかけづくりとしての事業構想のワークショップを行った。

まず具体的な成果としては、本ワークショップをきっかけに移住者向けの低エネルギー住宅改修事業とレンタサイクル事業の2つのアイデアが提案され、参加者の有志を中心に実施体制の構築が進められている。また双方からの満足度の高いプログラムとなった。

< 今後の展望 >

本プログラムにおける発見された課題は、域学連携そのもののアウトリーチ活動である。今回参加された方からは「こんな取り組みが地元でされているとは知らなかった」という意見が上がった。

そのため今回のプログラムでは「学生ー地域住民」という対比でプログラムを組んだが、地域住民も「域学連携に関わってきた住民ーあまり詳しく知らない住民」という軸も検討するべきかもしれない。

また今回は相互学習という形式を取っていたが、当初の期待は相互がそれぞれの講演を学び取り、その中で考えを深めるというものであった。ある一定レベルではその想定を満たしていると言えるかもしれない。

しかしアンケートを見ていると、そうとも言えないものも散見される。
そのため今後相互学習を掲げるのであれば、さらに工夫が必要である。

また今回のワークショップで出たアイデアをブラッシュアップ&実装化するには、まだまだ障壁があると言える。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動NPO事業助成金	2 4 6 , 0 0 0
自己資金等	1 6 , 5 8 8
合 計	2 6 2 , 5 8 8

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	謝金	8 0 , 0 0 0	8 0 , 0 0 0
	旅費交通費	7 6 , 5 8 8	7 6 , 0 0 0
	委託費	7 0 , 0 0 0	5 4 , 0 0 0
	小 計	2 2 6 , 5 8 8	2 1 0 , 0 0 0
間接経費 (一般管理費)		3 6 , 0 0 0	3 6 , 0 0 0
合 計		2 6 2 , 5 8 8	2 4 6 , 0 0 0